

対象物質	質疑	回答
	ヘキサシアン鉄カリウムやナトリウムなどのフェロシアン化物を扱う。シアン化水素の検出センサーを購入した方がよいか。	その必要はないと思う。シアン化水素発生のある場合は、ドラフト中で行うようにする。
	ターシャリーブチルアルコールの水溶液(300ppm)をポリ容器に入れて大丈夫か。液量は1,2週間で300Lくらい。アセトン廃液3Lにニクロム酸カリ溶液(365g)3Lを入れた。pHは7。発熱等していない。	ポリ容器でも耐性はあるので大丈夫。(塩ビ容器はダメ) 赤い容器から白い無機系容器に移し替え、一般重金属廃液として排出する。
	無機系廃液(KCl,KOH,HCl,W)を青色廃液容器に貯留。白色容器に入れるべきか？	白色容器に移し替える
(不明)	含有物質はほぼ判明しているが、含有率(%)やpHの不明な有機廃液がある。含有物質はクロロホルム、フェノール、エタノールで、総量は約500ml	pHは試験紙あるいはpHメーターで測定する。含有率は推定で記入し、全く不明な場合は三分の一ずつでよい。
(不明)	内容不明の廃液がある。1本は有機系容器で2Lくらい。もう1本は無機系容器で結晶が析出している。	有機系について溶剤臭があれば、有機溶剤として排出する。無機系については、業者(道環境科学技術センターなど)に廃液の種類を特定してもらう。
(不明)	内容不明な廃液が数本ある。ポリビンやガラスビンに入っている。何十年も立っているかもしれない。他に不要試薬もある。どうすればよいか。	内容を確定してから処分になる。北大と契約している処理業者に問い合わせ
(不明)	内容不明な廃液がある。プラスチック瓶に100mL×1、350mL×3500mL×2本。	分析業者に①pH、②有機溶剤含有の有無を分析してもらい、その結果により廃液分類を決定する。
(不明)	内容不明な廃液が数本ある。アセトンが入っているもの、少しシアンが混じっている可能性があるもの、エッチングで酸やアルカリが入っているものもある。	pHを測定し、アルカリ性の場合「シアン」、酸性の場合「一般重金属」、中性で有機溶剤が含まれている場合、「可燃性」に分類する。
2-エチルヘキサン酸スズ	不要試薬の2-エチルヘキサン酸スズが200~300mLくらいある。	可燃性有機溶剤廃液とする。ヘキサンなどに溶かして出すとよい。
2-ビニルピリジン	2-ビニルピリジン200mL	可燃性溶剤、たとえばエタノール等で希釈して排出す
2-メルカプトエタノール	2-メルカプトエタノール1L未満にヘキサン200mLを混合して廃液としてよいか。	混合廃液としてよい
NaOH	H2S吸収NaOH水溶液、pH13-14、2Lくらい	シアン廃液。備考欄に成分を記入
PMMA	PMMAとクロロホルムを含む廃液100mLがある。少ないがどうすればよいか。エタノールなどの廃液はかなりある。	他の廃液に混ぜて、ハロゲン系として排出する。
ア	アクリルアミド	アクリルアミドが含まれるゲルの処分方法。
	アジ化ナトリウム	アジ化ナトリウム(0.02%)廃液2Lの処理。TrisとNaClを含む。
	亜硝酸カリウム	亜硝酸カリウム
	アセトニトリルとアニリン	アセトニトリルとアニリン
	アルコール	テトラフルオロホウ酸(数mL)とアミン類(ピリジンなど)およびアルコールを含む廃液。水も含む。
	アンモニア水	アンモニア水
イ	イソシアニン	イソシアニン等の廃液
エ	エタノール	ヨウ素、ヨウ化カリ、エタノール、グルタルアルデヒド、酢酸が入っている廃液
	エタノール	エタノール廃液(10L中に15-20mL)
	エチジウムブロマイド	エチジウムブロマイドのゲルをポリ袋に入れて保管している。これで、揮発することはないか。
	エチジウムブロマイド	エチジウムブロマイドの水溶液。
	エチジウムブロマイド	エチジウムブロマイドを含むほう素廃液がある。エチジウムブロマイドは、分離して出した方がよいか。
	エチジウムブロマイド	エチジウムブロマイドの水溶液。低濃度で、バッファーを含む。
	エチレングリコール	エチレングリコール(50%)廃液の処理方法について
	エッチング廃液	金エッチング液廃液の処理法について。ヨウ素とヨウ化カリウムが溶けている。水溶液で、少し有機溶剤を含んでいるかも。100mLくらいある。
	塩化セシウム	セシウム50ppmを含む粘土が100gくらいある。セシウムは塩化セシウム。
	塩化銅	有機系廃液が入っている容器に、塩化銅の溶液(8g/200mL)を誤って捨てた。有機系は、アセトンとエーテル。
	塩酸	塩酸20kg2本、硫酸15kg1本
	塩酸	不要の塩酸、硝酸(500mL各1本)
カ	カーボンナノチューブ	カーボンナノチューブ含有水溶液
	界面活性剤	界面活性剤の処理法。数リットル入りの容器が3本ある。
	過塩素酸	過塩素酸と硝酸の混合廃液が出る。各1mol/Lで1ヶ月5Lくらい。
	過塩素酸	ステンレスを過塩素酸で表面処理したときの廃液の処理。Fe,Cr,Niなどが微量に含まれる。他にエタノールが5%程度。廃液は炭酸ナトリウムで中和してある。15~20Lある。
	カコジル酸ナトリウム	カコジル酸ナトリウム廃液の処理方法
	カコジル酸ナトリウム	カコジル酸ナトリウム(1Mより低い)とグルタルアルデヒド(10%以下)の混合溶液。100mLくらい。
	過酸化水素水	過酸化水素20kg1本
	過マンガン酸カリ	過マンガン酸カリ廃液

対象物質	質疑	回答
ガリウム・ヒ素	アセトンに微量のガリウム・ヒ素などの粉末が混ざっている	可燃性廃液で良い。
カルキトックス	カルキトックス(塩酸とEDTAを含む)。中和したらガス発生。4Lほどある。	外部業者に委託するのが良い。
乾燥剤	粒状の乾燥剤(劇物とある)	試薬であれば、アサヒブリテックに問い合わせを。
キ ク グ 酸水溶液3L	5%硝酸水溶液3L	可燃性廃液
グアニジンチオシアネート	核酸キットで、グアニジンチオシアネートが入っている廃液を処分したい。220ml×20本くらいある。	法令に該当しないもの。可燃性有機廃液とする
グアニジン塩酸塩	グアニジン塩酸塩水溶液20ccの処理法。	可燃性有機廃液(主成分エタノール)に混合して、排出する。
グルコース	微生物培養廃液。主にグルコース(20g/L)、ほか酵母と塩化ナトリウム。培地は液体培地で感染性なし。1度に18リットル	有機物(グルコース)濃度が高いので、BOD(生物化学的酸素要求量。下水道基準0.6g/L)濃度を下げたため水による希釈放流が望ましい。
クロロホルム	古いクロロホルムを処分したい。500mLが2本。	ハロゲン系有機溶剤として排出
クロロホルム	クロロホルム100mLくらい	ハロゲン系になる。可燃性に混ぜて、ハロゲン系として排出
クロロホルム	クロロホルムとフェノールの混合廃液をこれまでは可燃性廃液としていたが、ハロゲン系廃液として出すべ	そのようにする。
ケ コ コ 軽油燃焼廃液 現像剤	軽油燃焼後の廃液 粉末の現像剤	可燃性有機溶剤として排出 溶解するか、産廃処理業者に処分を依頼する。
コ 抗がん剤	不要試薬が段ボールに10箱くらいある。抗がん剤もある。	処理業者に委託
抗生物質	ペニシリン等の抗生物質がある。30種類くらいで、25gビンなどに入っている。	水に溶かして排出。種類は「可燃性有機溶剤」とする。
サ 酢酸イソアミル	酢酸イソアミル10Lくらいある。プラスチックを溶かす性質がある。	なるべく出す直前に廃液容器に入れ、備考にその旨記入する。
酢酸カリウム	酢酸カリウムは有機系廃液でよい。不凍液で30L、濃度25%~28%くらい。	他に有害物が入っていなければそれで良い。
酸	酸(希塩酸)	一般重金属廃液
酸化銀	酸化銀・コバルト、酸化クロム(三価)の処分方法	学部の廃棄物処理担当者に問い合わせを
酸化クロム	酸化銀・コバルト、酸化クロム(三価)の処分方法	学部の廃棄物処理担当者に問い合わせを
シ ジアミノフェニルインドール	DAPI(ジアミノフェニルインドール(0.02μg/L・変異原性あり))	可燃性有機溶剤とする。反応しないようであれば、混合して出しても良い。
ジアミノベンジジ	ジアミノベンジジンの水溶液がある。4mg/10mL位の濃度で、数リットルほど出る。	発がん性の可能性はあるが、法令の規制はない。可燃性廃液分類とする。
シアン化カリウム	未開封のシアン化カリウム25gがあり、処分したい。他のものもあるので、処分業者を教えてください。	水に溶かしてシアン廃液とする。量が多いなら、処分は業者に依頼
シアン化合物	シアン化合物を含む有機溶剤	可燃性廃液
ジエチルエーテル	ジエチルエーテルが残っているものがある。20L容器に入っている。	他の溶剤(廃液)で10%以下に希釈して排出する。
ジクロロ酢酸	ジクロロ酢酸25g、パンディー液(フェノール含有)	可燃性廃液
四酸化オスミウム	四酸化オスミウム1L。	現在処理をしていないので、方法が決まるまで研究室で保管する。
四酸化オスミウム	退職の教員が不要試薬を置いていった、四酸化オスミウムがアンブル(1g)で4本ある。	他の研究室で使用する事があれば、譲渡する事も検討する。処理方法がないので、研究室に保管
ジメチルジクロロシラン	ジメチルジクロロシラン	可燃性有機溶剤
重亜硫酸ナトリウム	重亜硫酸ナトリウム1LがあるpHは3	一般重金属廃液とする。
臭化水素酸	0.05M臭化水素酸10Lがある。1ppm程度の有機物も入っている。	水酸化ナトリウム溶液等で、中和処理する。
重金属化合物	退職の教員が不要試薬を置いていった。重金属化合物でCo,Cd,Baなど十数本。水溶液もある。	水に溶けるものは、廃液として出す。溶けないものは、外部の処理業者委託。
硝酸	不要の塩酸、硝酸(500mL各1本)	別々に廃液容器に入れて排出する。
硝酸	硝酸の洗浄廃液(2%)が30-40L/月発生する。これは、回収する必要があるか。	一般重金属廃液として、回収する。
硝酸	ステンレスの腐食に使用した硝酸	一般重金属廃液とする。
硝酸銀	硝酸銀	一般重金属廃液
硝酸銀廃液	硝酸銀廃液(5%、3%ヘキサメチレンテトラミン含有)	一般重金属廃液とする。
消毒薬	消毒薬がある。主成分はエタノール。ベンザルコニウム塩化物等を含有。10リットルくらいある。	可燃性廃液とする。
シリコングリース	シリコングリース	廃試薬処理業者へ問い合わせ。
シンナー	シンナーの廃液	シンナーは、有機系廃液のうちの「可燃性有機廃液」にあたる。他の可燃性有機廃液と混合して排出してもよ外部処理業者に委託する方法がある。水産学部の事務部(営繕か用度担当)に聞いてみる。
ス 水銀	破損した温度計の中に入っていた水銀がある。	外部処理業者に委託する方法がある。水産学部の事務部(営繕か用度担当)に聞いてみる。
水銀	金属状水銀の処分方法。無料に近い処理費である。	学部の廃棄物処理担当者に問い合わせを
水銀	濃硫酸に微量の金属水銀が混入。10リットルくらい。	水銀廃液とする。
水銀	廃油の中に温度計の水銀を含むもの(10Lくらい)。	処理業者に依頼する。
水銀温度計	水銀温度計を割ってしまった。	北大と契約している、不用試薬処理会社に処理を委託する。
水銀廃液	水銀廃液中に微生物が含有している。1リットルくらいだが、そのまま出してよい。	そのまま出してもらう。
水酸化カリウム	水酸化カリウム水溶液の廃液がある。濃度は25%くらい。廃液として出しよいか。	アルカリ性なので、シアン廃液分類とする。
セ 洗剤	洗剤と書いてある廃液がある。2Lくらいで赤い廃液容器に入っている。	pHは11くらい。泡立っている。アルカリ性洗剤か。可燃性有機溶剤で出してもらう。
タ ダイオキシン	ベンゾa-ピレンとTCDD(数100mL発生の実験計画)の処理法	ベンゾa-ピレンは、可燃性有機溶剤廃液とする。TCDDについては処理には許可が必要なので、もし発生するのであれば、当面厳重に保管しておく。
ダイオキシン使用実験	ダイオキシン使用実験を計画。プラスチック容器や培地(液体)が出る。	札幌市:焼却灰やガラス類は札幌市の埋め立て地に処分可能。分析証明書が必要。それ以外は、民間の処理業者に依頼することとなる。北海道ではテクノしか許可を持っていない。

	対象物質	質疑	回答	
チ	チオグリコール酸	チオグリコール酸、セルファミン、界面活性剤(主成分)の混合廃液10L	可燃性有機廃液として、表示札を添付して出す。	
	チオシアン化 Guanizhin	キットの中にチオシアン化 Guanizhin が含まれている廃液の処理方法。濃度不明。数10mL。	排出予定のあるハロゲン系有機溶剤に混合して排出する。	
テ	テトラドキシリン	1μMの毒素テトラドキシリンが10mLある。廃棄はどうぞればよいか。	可燃性溶剤と混合して排出。焼却のため	
	電解液	電解液を中和したものがある。鉄やクロムを含有。少量の沈殿が来た。元はpH1.2。	そのまま出してもらおう。今後は中和せずに排出する。	
	電気泳動用核酸検出試薬	電気泳動用核酸検出試薬(低変異原物質)が廃液として出る。廃液量は、年間多くても500ml程度。	有機試薬であれば、可燃性有機溶剤として排出する。	
ト	動物死体	有害物を投与した動物死体。シクロフォスファミドでClPを含み抗癌性物質。MSDSでは焼却処理を行う事となっている。	医学部の焼却炉担当者とは相談してほしい。	
	ドデシル硫酸ナトリウム	0.05%ドデシル硫酸ナトリウム2Lくらいの処理	下水として放流可能。	
	トリクロロ酢酸	トリクロロ酢酸の廃液1L以下。水か有機溶剤に溶けている。	ハロゲン系有機溶剤として排出する。他の有機溶剤廃液と混合して排出しても良い。	
	トリフェニルホスフィン	トリフェニルホスフィン(250μモル/10mL)のテトラヒドロフラン溶液の処理	「可燃性有機溶剤」の廃液として排出する。	
	トリメチル塩化スズ	トリメチル塩化スズ(10グラム以下)	可燃性溶剤で希釈し焼却する。溶かして可燃性廃液として排出する。	
ナ	ナトリウムエトキシド	ナトリウムエトキシドの水溶液100mL弱。濃度0.05mol/L。	可燃性有機溶剤廃液として排出する。(水に溶かすと、エタノールとNaOHになる。)	
ニ	二酸化硫黄	二酸化硫黄の洗浄水600-700mL。	「一般重金属」の「酸水溶液」とする。	
	ニトロプルシッドナトリウム	ニトロプルシッドナトリウムNa ₂ [Fe(CN) ₅ NO]・2H ₂ O水溶液(0.04g/L)2L	シアン廃液分類とする	
ノ	濃硝酸, 臭素	鉍物を溶かす目的で濃硝酸と臭素を混合し、その残りが恐らく『臭素酸』になっているであろう廃液。液量は約210ml。	一般重金属廃液として、排出する。反応しないようであれば、他の廃液と混合して排出する。	
ハ	ハイエム液	ハイエム液(塩化第2水銀)100mL4本がある	水銀廃液とする。少量なので、水1Lに溶かして排出する。	
	廃酸, エタノール	廃酸(硝酸と塩酸、10%程度)20Lの中にエタノール300ccが入っている。	一般重金属廃液として、排出する。	
	廃油	ロータリーポンプ等に用いているオイル(SMR-100)	「廃油」分類になる	
	パラジウム	パラジウムや亜鉛の微粒子を含む廃液。500mLに10mg以下。処理方法は?	一般重金属廃液として排出する。	
	パラホルムアルデヒド	パラホルムアルデヒド	ホルマリン廃液とする。	
	パラホルムアルデヒド	パラホルムアルデヒド(40g/L)の廃液分類	可燃性有機溶剤とする。反応しないようであれば、混合して出して良い。	
	パラホルムアルデヒド	パラホルムアルデヒド	固体状態であれば水に溶かして「ホルマリン」廃液として排出可能	
	ハロゲン系有機溶剤	ハロゲン系有機溶剤中に亜鉛や銅を含む廃液、	ハロゲン系廃液	
	ヒ	ヒ素	銀(ナノ粒子)、ヒ素、カドミウムおよびクロムが混在する廃液、ヒ素廃液としてよいか。	ヒ素廃液とする
		ヒ素	インジウム、ガリウム、ヒ素の研磨排水。微粒子が含まれる。一部溶けているようで、ほぼ毎日発生する。	ヒ素は毒物なので、ヒ素廃液として回収する。
ピリジン		ロータリーポンプの油にピリジンが混入。10L弱ある	廃油として表示札にその旨記入して出してもらおう。	
フ	フェノール・ニトロプルシッドナトリウム水溶液	フェノール・ニトロプルシッドナトリウム水溶液	可燃性廃液	
	フッ化アンモニウム	エチレングリコールとフッ化アンモニウムの混合物。それと、ホルムアミド、リン酸及びフッ化アンモニウムの混合物。	可燃性有機溶剤として排出する。	
	フッ化水素酸	フッ化水素酸(50%)の5000倍希釈のもの約1Lを重金属廃液7~8Lと混合したい。重金属は、銅、亜鉛、タングステンなどでppbオーダー。	フッ素廃液として出してもらおう。	
	フッ化水素酸	毒物のフッ化水素酸(48%、25mL)がある。	希釈、中和後フッ素廃液にする。難しい場合は、外部処分業者へ。	
	フッ素	フッ素、アンモニウム、ホウ酸の混合廃液(pH2くらい)	フッ素廃液とする	
	ブラックT	旧ポイラー室にあったKCl(10g)、ブラックT(50g弱)	KClは水に溶かして処理、ブラックT(エリオクロムブラックTと思われる)は温水に溶かして焼却処理するので、業者に委託	
	フルオロアセトアミド	フルオロアセトアミドを使用。特定毒物である。培地(微生物を生育させる寒天)に混ぜて使用。	フッ素廃液よりは有機物ですのでハロゲン系有機溶剤廃液分類の方がよいと思います。また、大量の廃液が生じる場合は、固体のまま廃棄物処理業者に処分を依頼するのがよいかもしれません。	
	ブルシン水溶液	ブルシン水溶液(0.2mM)1L	可燃性有機廃液	
	ヘ	ヘキサフルオロリン酸リチウム	ヘキサフルオロリン酸リチウムLiPF ₆ の廃液がある。溶媒はプロピレンカーボネート。刺激性の白煙発生。年間数リットルの発生。	水で希釈し、可燃性有機廃液として排出。LiPF ₆ もプロピレンカーボネートも水に溶ける。
		ベルオキシニ二硫酸カリ	ベルオキシニ二硫酸カリの苛性ソーダ溶液が500mLある	下水道法で規制されていないので、中和後放流する。
ベンゾa-ピレン		ベンゾa-ピレンとTCDD(数100mL発生の実験計画)の処理法	ベンゾa-ピレンは、可燃性有機溶剤廃液とする。TCDDについては処理には許可が必要なので、もし発生するのであれば、当面厳重に保管しておく。	
ホ	ホウ酸	ホウ酸、ホウ酸ナトリウム(pH中性)。量は10L/年程	一般重金属廃液とする。	
	ほう素	ほう素(ホウ酸)廃液	一般重金属廃液で成分として「ほう素化合物」を入力する	
	ほう素	有機溶剤8割くらいの中にほう素が微量に溶けている廃液の処理について	可燃性有機廃液として排出する。	
	ポリエチレングリコール	ポリエチレングリコールの廃棄方法	「可燃性有機溶剤」の廃液として排出する。	
	ホルマリン	ホルマリン	ホルマリンは分解放流	
	ホルマリン	ホルマリンの中に少量のグルタルアルデヒドが含まれている	ホルマリン廃液分類でよい。グルタルアルデヒドを含むことを備考欄に記入する。	
	ホルマリン	生物(マウス)保存用のホルマリンがある。排出可能	感染性がなければ排出可能。	
	ホルマリン廃液	感染性のホルマリン廃液15リットルほどがある。どう処理すればよいか。	感染性廃棄物処理業者に委託する。医学部では、(株)タナカに単価契約している。	

対象物質	質疑	回答
ホルムアミド	SGホルムアミド、シクロヘキシミド含有寒天	可燃性廃液とする。
マンガン	ホルマリン100ppmとマンガン100ppmの混合廃液	一般重金属廃液とする。
メタノール	メタノールに硝酸銅が溶けている廃液。銅が数mgで30mL程。	研究室で出る可燃性有機廃液(アセトンやメタノール)に混合して排出する。
メタノール	メタノール30%、酢酸5%、残り水に溶けているブリリアントブルーの廃液	可燃性有機廃液で、備考にブリリアントブルー含有と記入する。
メタヨウ素酸ナトリウム	メタヨウ素酸ナトリウム(10%と1%。各20-30mL)	100倍程度に希釈して放流
有機アルカリ	エッチング液。25%以下の有機アルカリを含む水溶液。物質は水酸化テトラメチルアンモニウム。pH13以上。10Lある。	可燃性有機溶剤として排出する。
有機物固体	有機物固体、ポリアクリルアミド(樹脂)	廃棄物として専門業者に委託
有機溶剤	ホルマリン、パラホルムアルデヒド、ホルムアミド、アセトン、キシレンの五種類を混合して出したい	混合してもOK。
ヨウ素	0.1g/Lヨウ素+数%硝酸の廃液2~3L	一般重金属廃液
硫酸	硫酸をメタノールに溶かした溶液。硫酸濃度3モラーで1リットル。	一般重金属廃液として、排出する。
硫酸	硫酸、硝酸	硫酸、硝酸については、原液のままだと危険性が高いので、5倍程度に希釈し「一般重金属廃液」分類で排出。混合してもガスが出ないようであれば混合して同じ容器に入れても良い
硫酸	古い硫酸(500mL×3本)がある。	専門業者に委託する。
硫酸アンモニウム	硫酸アンモニウムが40-50L/月ほど出る。回収する必要があるか。	回収してもらう。
硫酸マンガン	アジ化ナトリウム(0.05g/L)と硫酸マンガン(0.55g/L)の廃液	一般重金属廃液として、排出する。
流動パラフィン	流動パラフィンと真空ポンプ油が各1リットル位ある。混合して出しても良いか。	そのようにして良い。
冷却液(エチレングリコール)	冷却液(エチレングリコール)	可燃性廃液